

---

# 僕と君

下図731

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕と君

### 【コード】

N5040L

### 【作者名】

下図731

### 【あらすじ】

主人公の純粹で無垢な片思い小説。 になるはずだった・・・

はじまり。

38人が緊張した面持ちで規則正しく並べられた机にきちんと座る。明日の用意ってなんだったつけと笑顔で聞かれた僕はそこに何かの救いを感じて笑顔を返した。今思えば最高の高校生活のスタートじゃないか

そう、最高の…。

一年一組というまあ並びのいい数字のクラスに入った僕は

中学の時の知り合いが一人もいないこの学校自体に対して少し恐怖を覚えていた。

教室内では誰にも喋りかけられず、かといって誰も喋りかけてくれず。

そんな中で君に喋りかけられた時は、本当に嬉しいというか、気が抜けるというか、やっと人と話せたというか。

もちろん笑顔のやり取りこそしたものの、会話は短いものだったけどやっぱり安堵感というのはあった。

席が前後だったってのもあるし、やっぱり君はそんな時から魅力的だったんだなあと思つてこそ思う。

実際その時は、人と喋れたという満足感が僕を支配していて相手が誰なんてことはあまり気にしていなかった。

君と喋れたことをきっかけに荷の重みがほどけた俺は、それなりにクラスメイトとも仲良くなり、

高校生活スタートは正に順調といった感じだった。

クラスの中で苦手な奴が零に等しいなんてことは、やっぱりすごいことだったと思う。

でもスタートこそ順調だったんだけど、みんなが部活に入って学校生活を充実させていく中

僕は何もやりたいことがなくて充実した生活だったかというところ…や

つぱり違つたかな

ただ、気の合う奴ができたのはすげえデカかったと思う。

光輝とは今でも付き合う仲だし、そういうやつと高1の時点で出会えてたつてのは本当によかった。

ていうかアイツがいなかったらもしかしたら学校やめてたかもしんな いや、それは言い過ぎか。

まあそのころから気になり出してたんだよな。

君は教室の中で誰にも負けない純粹に輝く笑顔を時々出してた。

というか僕が気付いてなかっただけで多分結構出してたんだと思う。作つてないけど何かを感じる。そういうのがあつたんだよな。

その時俺はまだ、自分の気持ちがあつてなかったけど

それでも前兆があつた。うん、すげえわ。

淡々と過ぎてく中、一つの変化があつた。 校外学習。

最初だし先生も適当に、名前順で分けちゃうなんて言うから

クラスのみんなはブーイングしたりしてたけど仲いい奴が一人の僕にはあんまり関係なかった。

光輝とはどうせ名前順的には遠かったし、まあ普通に行くだけかなと思つてたけど

なんとまあ偶然に、前後席だった君とは必然的に同じ班だった。

そんなに意識はしてなかったけどな。 ただ、割と可愛い子と一緒になれてラッキー程度だったし。

班のメンバーは5人。一人は、学校休みがちな奴で前々から休む宣言してた奴。

一人がメガネをかけた優等生つて感じの男と、何を考えてるかかわからない女の子。

二人とも、そんなに絡んだことないやつだったから印象は残つてな

いな。

後二人は僕と君。

どっちかというとなんか高校生とかにありがちな

「校外学習ー？だりーんだけどー」

みたいな感じの気持ちだったけど、でもまだ最初だったから当然休む訳もなく

学校から、バスに乗って僕達は揺られて京都まで向かった。

今回の校外学習は、京都の町並みを目で見ると昔の違いを肌で感じる。

という名目の、ただの親睦交流旅行。

班での自由時間を長めに取っていて、自由に買い物行けやーって感じで

それ逆に最初なのに駄目じゃないですか と俺は思ってた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5040/>

---

僕と君

2011年1月28日13時57分発行